1　国語

学校番号	３２６

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	古典Ｂ	単位数	２	年次	３
使用教科書	「新　高等学校　古典Ｂ」（明治書院）						
副教材等	「イラスト資料でつかむ古文の基礎」（中部日本教育文化会） 「要点プラス　体系古典文法」（数研出版） 「新版六訂　カラー版新国語便覧」（第一学習社）						

1 担当者からのメッセージ

長きにわたって親しまれてきた古文や漢文といった古典作品を味わい親しむことで、感性や考え方を豊かにするとともに、日本の文化・伝統への理解や想いを深めることを目指す。

2 学習の到達目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに，ものの見方，感じ方，考え方を広くし，古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む力を進んで高めるとともに，古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり，その価値を考察したりして，自分の考えを深め，発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まりなどの理解を深め，知識を身に付けている。
主たる評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）			・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学期のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	説話	十訓抄 「博雅の三位と鬼の笛」	○			◎	○	a：比較的短く、話が具体的で展開の分かりやすい説話を読むことで、古文に親しんでいる。 d：場面状況と登場人物の行動や心情とともに、指示語の内容を把握し、話の展開を理解している。 e：古語辞典を用いて重要古語の意味用法を調べ、適切に理解している。	行動の観察 記述の確認 定期考査
	歴史物語	蜻蛉日記 「町の小路の女」	○			◎	○	a：日記を読むことを通して当時を生きた人物の心情をとらえている。 d：文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえ、登場人物の行動や心情を理解している。 e：大鏡の概要を理解している。	行動の観察 記述の確認 定期考査
	逸話	西京雑記	○			◎	○	a：比較的短く、話が具体的で展開の分かりやすい逸話を読むことで、その面白さを理解している。 d：本文に表れた古代中国人のものの見方、感じ方、考え方を理解している。 e：本文を訓点に従って音読し、書き下し文に改めることができ、重要な句形についても理解している。	行動の観察 記述の確認 定期考査

2学期	物語	源氏物語 「小柴垣のもと」	○			◎	○	a：源氏物語の概要を理解し、関心を深めようとしている。 d：文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえ、登場人物の行動や心情を読み取り、物語の面白さを味わえている。また、作中の和歌を修辞技巧に留意して、話の展開に沿って解釈している。 e：最高敬語や補助動詞の敬語について理解している。	行動の観察 記述の確認 定期考査
	伝承	古事記 「須佐之男命の大蛇退治」	○			◎	○	a：上代の文学の特徴を理解し、古代の英雄像をとらえ、古代人の豊かな想像力を読み味わっている。また、音読を通して上代特有の言葉遣いに慣れ、独特のリズム感を味わっている。 d：文章の内容を構成や展開に即してとらえている。また、作中の和歌を修辞技巧に留意して、話の展開に沿って解釈している。 e：上代特有の語や文法を理解している。	行動の観察 記述の確認 定期考査
	史記	項羽と劉邦 「鴻門之会」	○			◎	○	a：作者作品について理解し、中国歴史への関心を高めている。 d：登場人物の行動や心情、場面状況などを読み取っている。 e：本文を訓点に従って音読し、書き下し文に改めることができ、重要な句形についても理解している。	行動の観察 記述の確認 定期考査
3学期	和歌	和歌	○			◎	○	a：繰り返し音読し、独特のリズム感を味わっている。 d：各歌に詠まれた情景や作者の心情を読み取れている。また、我が国の伝統的美意識の歴史的展開を理解している。 e：修辞技巧や優れた表現を理解している。	行動の観察 記述の確認 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力　　c:書く能力
d:読む能力　　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて〇印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。